

VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

新学長に聞く

AI時代を生き抜くリベラルアーツの力

学長 太田 邦史



学長 太田 邦史 OHTA Kunihiko

1985年東京大学理学部生物化学科卒業。1990年同大学院理学系研究科博士課程修了(理学博士)。専門は分子生物学・合成生物学。1991年理化学研究所研究員、2003年同研究ユニットリーダー、2006年准主任研究員を経て、2007年東京大学大学院総合文化研究科教授。2019年より2021年まで同研究科長・教養学部長を務める。以降、理事／執行役・副学長として学術長期構想、教育改革、DX推進、入試企画、IRなどを担当。学科改組や新学部構想など大学運営に幅広く携わる。2026年4月より現職。

新学長に聞く

AI時代を生き抜く リベラルアーツの力

キリスト教教育とリベラルアーツを礎に、豊かな人間性と主体的に学ぶ力を育む東京女子大学。AI時代にこそ求められる教育の価値と可能性を新学長に聞きました。

「他者のために生きる」 キリスト教精神が人生の豊かさを生む

私が東京女子大学に着任してまず目を奪われたのはキャンパスの美しさでした。四季折々に咲く花々や緑鮮やかな天然芝のグラウンド。雨にぬれずに校舎を行き来できるよう細やかに回らされた渡り廊下など、キャンパスのすみずみに至るまで温かな配慮と調和が見て取れます。

こうした雰囲気の根底にあるのは、正門右手にあるチャペルの存在、そして本館正面に刻まれた“QUAECUNQUE SUNT VERA”（すべて真実なこと）という言葉に象徴されるキリスト教の精神です。本学ではキリスト教精神を教育の礎とし、特に「SS精神（Service and Sacrifice：犠牲と奉仕）」を大切にしていますが、私が本学の卒業生から常に感じるのは「誰かの役に立ちたい」「世の中に貢献しよう」という気持ちです。学生時代に、日々の授業や礼拝、友人との交流を通じて身に付けたSS精神は卒業後も健在であることを感じました。

私自身は、若き日にキリスト教の愛と寛容に触れたことからクリスチャンになりました。以来、キリスト教の奉仕の精神に則って生きるよう心掛けてきたところ、いつの間にか周囲には

助け合いのネットワークが広がり、私自身が多くの方々を支えられてここまで来ることができました。数学の一分野であるゲーム理論の研究においても、テイカー（奪う人）よりもギバー（与える人）の方が最終的には多くを得るという結論が示されているそうです。これは興味深いことではないでしょうか。

誰かのために力を尽くす生き方をしていると人は自然と輝きを放ちます。やがて「あの人は心がある」「軸がぶれない」「いざという時に頼れる」と思われる存在になっていく。その力こそが、第2代学長を務めた安井てつが語った“Something”ではないかと私は思います。

キリスト教への信仰の有無にかかわらず、仲間と共にこの美しいキャンパスで4年間学ぶことで、学生の皆さんは“Something”を得てより豊かな人生を送っていただきたいと 생각합니다。

AI時代に目指すべき 「専門性をもつ教養人」

今日の社会ではAIが著しく進歩し、近い将来にも人間の仕事が奪われてしまうのではないかと懸念されています。そんな

時代にこそ求められるのが本学のリベラルアーツ教育だと考えます。その目指すところは人格の陶冶であり、また批判的に物事を分析し本質を洞察する力、絶えず学び続け創造に結び付ける力、他者と対話し理解を深める力、そして自ら問いを立てて課題を克服していく力の育成です。これらはAIだけでは到達することが不可能であり、まさに人間がこれからの社会を主体的に生きるために必要とされる要素です。

AIは膨大な情報を高速で処理し、もっともらしい回答を生成できます。しかしその答えは「人間が納得しそうな答え」を確率的に組み立てた結果に過ぎず、倫理観を伴っているわけでもありません。現代はこれらAIが生成した情報に加え、さまざまな意図や背景を伴ったフェイク情報もあふれています。玉石混交の情報の渦の中で重要になるのが「批判的思考」です。リベラルアーツを通じて歴史や哲学、文学、そして聖書などに学ぶと、そこには善悪を含む多彩な人間の姿が描かれています。こうした学びの蓄積が判断の土台となり、物事の真贋を見極める眼を育てるのです。同様に、科学的な分野の知識も客観的な判断の材料として欠くことのできないものです。

人間が成長するためには知的好奇心を持って学び続ける必要がありますが、何も知識がない状態からは疑問も関心も生まれません。そこで、リベラルアーツの学際的な学びを通じて知の引き出しを増やすことで「これはなぜだろう」「それならこれはどうか」といった問いが生まれます。その答えがさらなる興味関心や社会課題の発見につながり、学びのサイクルが生まれていくのです。変化し続ける社会の中では、自ら学び問いを立てて未来を選択していかなければなりません。こうした能動的な学習態度が得られれば、AIに代替されることのない「人間ならではの力」を得られるのではないのでしょうか。

さらにリベラルアーツ教育においては、単に幅広い分野を薄く学ぶだけでなく、どこか一つか二つの領域に関しては専門的で深い知識を習得することが重要です。ある分野をとことん極め、「学問の本質を見抜く」という経験を持つことがその後



の大きな自信につながっていくからです。専門性という「縦」の軸があつてこそ、学際的な学びという「横」の展開が力を発揮します。本学が教育理念として掲げる「専門性をもつ教養人」という言葉は、まさにこの縦軸と横軸の重要性を示したものです。

リベラルアーツを深化する 学びの環境

さらに、専門とする分野を二つ以上持つと横断的な学びがより活性化します。二つの専門分野を接続することで得られる新たな力は、二本の縦軸を横軸がつなぐギリシャ文字の「π」に例えられることもあり、こうした力を育むのが、東京女子大学の「知のかけはし」科目です。例えば、「哲学×科学」のように異なる2分野を掛け合わせた授業においても組み合わせの妙から生まれる新たな価値に触れることができ、創造性を伸ばすための大きな刺激を得られることでしょう。これらの経験をベースに主専攻と副専攻の学びを自らデザインしてもらいたいと思います。

また本学では、2027年度から総合型選抜「知のかけはし入学試験」に「数学的思考力型」を新設し、一般選抜でも「数学」・「情報」を活用した「前期共通テスト単独2教科型」を新設しました。かつて安井てつが「女子にこそ数学を」という言葉を残したように、理系教育は本学の伝統でもあります。今後も文理含めたリベラルアーツの学びをさらに拡充していきたいと思っています。

なお「知のかけはし」という名称は、平和のために命を賭して日米の「太平洋の橋」となろうとした初代学長・新渡戸稲造の言葉に由来しています。その信念と学問に懸ける情熱は、現在も脈々と本学に受け継がれています。

理想的なリベラルアーツ教育には、学部で分断されないシームレスな教育組織、適正な人員を許容するコンパクトで魅力的なキャンパス、少人数教育や分野横断の学び、これらの価値観に賛同する学生や教職員の集合などがそろっていなければなりません。東京女子大学はそれらを全て備えた稀有な大学です。また対話型授業やキャンパスでの交流は、AI時代にこそ不可欠となる生身の人間同士のコミュニケーション能力を育む場として、今後ますます大きな教育的効果を示していくことと思います。

こうした本学の教育リソースを学生の皆さんが最大限に活用することで、一生を豊かに生きるための力を育んでくれることを心より願っています。🌸

(聞き手 渋谷 麻子)

2027年度入学試験より入試が変わります

本学は、2027年度の入試を見直しました。文理横断・文理融合教育の重要性が高まる中、進路選択の可能性を広げる入試をスタートします。詳細は、2027年度新入試特設サイトをご覧ください。

2027年度
新入試特設サイト



- 1 一般選抜 前期共通テスト単独2教科型を新設
- 2 総合型選抜 知のかけはし入試(数学的思考力型)を新設
- 3 一般選抜 英語外部検定試験利用型で出願条件を変更(情報数理科学科)
- 4 一般選抜 個別学力試験型・英語外部検定試験利用型で選択科目「生物」を追加(情報数理科学科)
- 5 一般選抜 後期共通テスト併用型で個別試験の試験時間を90分に短縮

受験生向けイベント情報

オープンキャンパス 7月5日(日)、8月1日(土)・2日(日)、2027年3月20日(土)

各種ガイダンスや模擬授業の他、学生広報スタッフ・教職員との個別相談、キャンパスツアーなどのプログラムを開催。自分に合った学びを見つけることができます。

高校生のための公開講座 7月18日(土) 10:00~11:00(オンライン開催/無料)

【テーマ】「推し」をリアルに感じる心：パラ・ソーシャルな関係の科学

【講師】小森 めぐみ 准教授(社会コミュニケーション学科)

「推し」を応援するとき、私たちの心の中では何が起きているのでしょうか。本講座では、メディア上の人物との関係を指す「パラソーシャルな関係」という概念を手がかりに、推し活などの日常行動を学術的に読み解く視点を紹介します。

1日東女生(キャンパス体験day) 10月12日(月・祝)、11月3日(火・祝)

在学生と一緒に実際の授業を受けることができます。授業の雰囲気や、どんなことをどのように学んでいるかを体験できます。

受験生コーナー(VERA祭(大学祭)との共催) 11月14日(土)・15日(日)

学生スタッフが、受験生の皆さんの疑問や質問に直接お答えするなんでも相談コーナーです。

一般選抜説明会 12月6日(日)

一般選抜を志望する方向けの説明会です。一般選抜ガイダンスや予備校講師による過去問講座などを実施します。

LINE公式
アカウント
(受験生向け)



イベント情報等
最新の情報をお届け

学部入試情報



2027年度
入学者選抜日程など
入試情報については
こちら

資料請求



大学案内、
過去問題集などの
ご請求はこちら

前学長 Message



信じる

前学長

森本 あんり MORIMOTO Anri

就活をする学生が「嘘をつきたくない」と言うのをよく聞きます。相手企業の求めそうな人物像に合わせて、自画像を作り上げる。ガクチカ(学生生活で力を入れたこと)で、勉強や実務の能力だけでなく人間的な魅力もあることをアピールする。「御社の経営理念に賛同して」と、心にもない熱意を装う。そんな努力を続けることに疲れてしまうのは当然でしょう。

わたしが学長に就任し、その職務を続けることができたのは、東京女子大学に来てそういう嘘をつく必要はない、と信じることができたからです。学長のつとめにはたくさんの方がいます。でも、いちばん大切なのは、信じることなのです。この大学が素晴らしい大学である、ということを中心に信じることができなければ、学長職をつとめることはできません。

全ての信仰と同じく、この信仰はときに疑いの挑戦を受けます。東京女子大学がいつも理想的な状態にある、と思えるわけではありません。大きく、かつ早急に、改革しなければならないこともあります。それでも、この大学にはそれをやり遂げる力があり、志のある教職員が集まっており、今年も優れた学生たちが入学してきた。そのことを知るたびに、わたしはこの大学の学長であることを心からうれしく、誇りに思うことができました。

周囲から「次はどこですか」と聞かれます。次なんてありません。もう2つ断りました。本学を去った後に、また別の大学のことを同じように信じるなんて、わたしにはできないからです。

親しく接した一人ひとりのことを、もうなつかしく感じています。これを読んだ方は、「自分のことだ」とお分かりになるでしょう。同窓会の役員や地方リーダーの方々にも、変わらぬエールをお送りします。みなさん、4年間ありがとう。🌸

森本あんり前学長へ贈る言葉

2024、2025年度の教学改革を主導され

森本あんり先生は、2022年4月に学長に就任され、4年の任期を全うされた。この短い間に、2024年度には「知のかけはし科目」という画期的な授業を柱に据えて全学共通教育を大胆に刷新され、さらに翌年度には1学部6学科への改組を実現された。先生は、この難事業をゆるぎない強い意志をもって主導されたが、先生の改革への姿勢で特筆すべきはその柔軟性と宣伝性にあったと思う。つらい決断を迫られる局面がたびたびあったが、異なる意見にも誠実に耳を傾けて、修正を厭わずにしなやかに遂行された。また、本学の「顔」として、率先して講演、出版のみならず、新聞やTVのメディアにも発信され、目指すリベラルアーツ教育をご自身の言葉で平明に説き、社会に向けて広く理解を求められた。先生が育まれた改革の芽がしっかりと実を結ぶように努めることが今の私どもの務めであろう。🌸



現代教養学部長
人文学科 日本文学文化専攻 教授
山本 真吾
YAMAMOTO Shingo

Career

TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol.19

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。



日本IBM(日本アイ・ビー・エム)
ハン ユジンさん

HAN Yujin
2024年度現代教養学部国際社会学科・国際関係専攻卒。近現代日本研究ゼミ卒業後、日本IBM(日本アイ・ビー・エム)に入社。現在はITコンサルタントとして、グローバルプロジェクトに参画。

ビジネスとテクノロジーの 架け橋に

私は日本IBMにて1年目の金融機関向けプロジェクトでのPMO支援(プロジェクトの進行管理や課題解決のサポート)やテスト推進(システムが正しく動作するか確認)、2年目の人事領域での採用支援を経験しました。それらを経て、現在は世界各拠点のシステム統合に向けた提案や施策検討を行い、ITとビジネスをつなぐ役割を担っています。

この仕事のやりがいは、日々の積み重ねの先に「自分の成長」を実感できる瞬間にあります。難易度の高い手順書を完成させた際の達成感や、当初は分からなかったシステムエラーへの対処を自ら判断できるようになった時、確かな手応えを感じます。

印象深いのは、インド、アメリカ、フィリピンのメンバーとの協働です。前提条件の異なる海外メンバーに対し、単に結論を伝えるのではなく、「なぜその対応が必要か」という背景や経緯、日本の現状まで言語化して伝える工夫を重ねました。この経験を通じて、情報を整理し、相手に伝わる形で発信する力が磨かれたと感じています。

こうした「相手の背景を尊重し、対話する姿勢」の土台には、東京女子大学での学びがあります。国際関係専攻で培った世界の歴史や文化への深い理解は、実務での信頼関係構築に直結しています。また、リベラルアーツ教育を通じて身に付いた「自ら問いを立て、多角的に考える力」は、正解のない課題に挑むコンサルティングの現場で大きな強みとなっています。

コロナ禍の影響でオンライン授業が中心の時期もあり

ましたが、ゼミの先生や友人らに支えられ、卒業論文執筆を最後までやり遂げた経験は、大きな達成感につながりました。

また、落ち着いたキャンパスで自分自身と向き合えた時間がその後の価値観や考え方を形作るかけがえのない財産となっています。

今後は、ITの専門性と業務理解の双方を深め、「ビジネスとテクノロジーを橋渡しできる人材」を目標としています。クラウド技術への知見を広げ、実現性の高い提案と価値提供ができるコンサルタントへと成長していきたいです。さらに、これまでのグローバルプロジェクトで培った経験を生かし、多様なバックグラウンドを持つメンバーと協働しながら、価値を発揮し続ける人材を目指します。

大学での学びがすぐに仕事に直結しなくとも、「どのように考えるか」という姿勢は、社会に出てから大きな意味を持ちます。自分の興味にじっくり向き合える東京女子大学の環境を生かし、さまざまな経験に挑戦してください。試行錯誤の中で見つけた自分なりの「軸」は、社会に出た後の大きな支えとなるはずです。

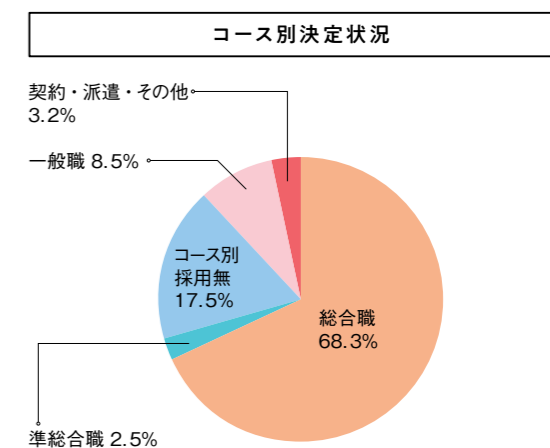
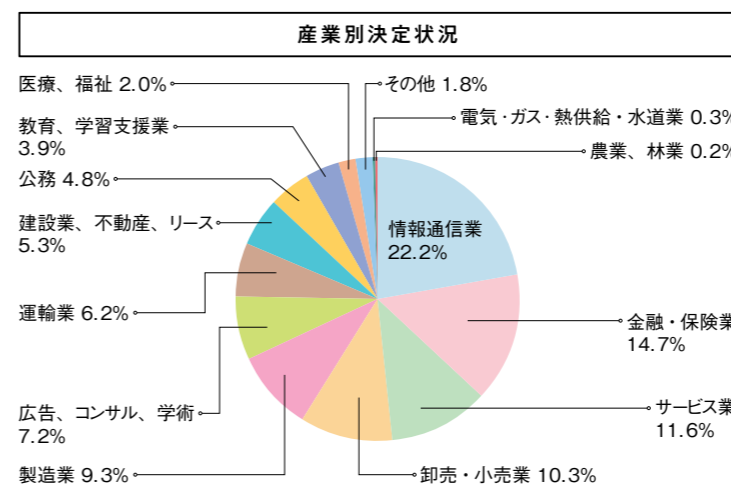
日本IBM虎ノ門オフィス前



2025年度就職決定状況

2026年3月卒業者の就職率は99.5%(前年:99.6%)となり、前年に引き続き高い就職率を維持することができました。学生たちを支えてくださったご家族に感謝いたします。情報通信業、金融・保険業、サービス業が上位という状況は例年と同様ですが、広告・コンサルティング・学術研究機関等の業界の割合が減少し、代わりに製造業への就職者が増えました。全体としては、特定の業界に偏ることなく、さまざまな業界に就職しています。また、総

合職の割合も68.3%で例年と同様の水準となり、多くの学生が幅広い働き方でキャリアを自ら切り拓いています。なお、就職先の上位は「日本航空(株)」「日本生命保険(相)」「りそなグループ」「国家公務員(一般職)」「全日本空輸(株)」でした。今後も、民間企業から公務員まで、学生一人ひとりの志望に合わせた多様な進路を実現するため、さらなる支援の充実に努めてまいります。



コロナ禍以降で初となる大規模な対面行事として 「第2回就職ガイダンス」を実施しました!

キャリア・センターでは4月9日(木)に、2027年3月卒業の学生を対象とした「第2回就職ガイダンス」を開催しました。

今回はコロナ禍以降で初となる大規模な対面形式での開催となり、対象学年の約4割に当たる424名の学生が出席しました。

ガイダンスの前半では、新卒採用の求人倍率や就職活動全般のスケジュールなどについて説明を聞き、昨今の就職活動の動向への知見を深めました。後半では、大手就職情報サイト3社の担当者から、各サイトの特性を生かした活用術や効率的な情報収集のコツ等について、各自のスマホでの画面操作を交えつつ、説明を受けました。実際に手を動かすことで、参加学生は情報収集の仕方をより深く、実践的に理解できた様子でした。

また、本学オリジナルの「就活手帳」の配付、本学独自の就職支援システム「VERAキャリアナビ」の紹介も併せて行いました。

対面だからこそ得られる刺激や情報は多く、参加者アンケートでは「参加型で分かりやすかった」「就職活動の見通しが立ち、役に立った」「就職活動の一步を踏み出せたと思う」「就活手帳がとても見やすかった。各社の説明もとても良く、取り組みやすかった」「インターンシップを選ぶのに手こずっていたが、どのアプリを使えばいいのか、自分に合ったものは何かをつかむことができた」など、前向きな感想が多く寄せられました。

対面、オンライン双方のメリットを踏まえ、今後も学生の心に響くイベントを数多く提供してまいります。



Students

ばばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

国際社会学科コミュニティ構想専攻 靱山真人ゼミは東京女子大学と
株式会社ジェイアール東日本都市開発による産学連携プログラムとして「西荻高架下 OPEN LABO マルシェ」を開催しました。
当日の様子などについて語っていただきました。

国際社会学科 コミュニティ構想専攻 3年
鈴木 ここみ SUZUKI Kokomi
鈴木 百々花 SUZUKI Momoka
中島 梨緒 NAKAJIMA Rio

2025年12月13日(土)、靱山真人教授(国際社会学科 コミュニティ構想専攻)の2年次ゼミのメンバー(当時)が、東京女子大学と株式会社

ジェイアール東日本都市開発による産学連携プログラムとして「西荻高架下 OPEN LABO マルシェ」を開催しました。このマルシェは「多世代交流」や「地域活性化」を目的に、私たち学生が立案し実施したものです。



西荻窪高架下 OPEN LABO マルシェチラシ

西荻窪駅の高架下スペースを活用し、洋菓子や紅茶、パン、カレーなど幅広いラインナップを誇る地元の出店者11組に出店していただきました。当日は私たちもマルシェの運営を担いながら、モルック体験や毛糸のワークショップ、ミネストローネの販売などを行いました。

ゼミのテーマは「西荻窪の課題を探り、解決に導く」であり、私たちは西荻窪の課題として「地域のさまざまな年代や領域の人々の交流不足」「地元の歴史あるお店や、まだ知られていな

「西荻の魅力発信・人々の交流促進」を叶える!

いお店の魅力が十分に伝わっていない」という2点を設定し、解決方法を考えました。そんな中、興味を抱いていたのが、2025年度より西荻高架下で展開されてきた「高架下マルシェ」という取り組みです。当初は「なんとなく楽しそう」という理由で引かれていましたが、次第に人々の交流促進、そしてお店やまち全体の魅力発信にとって有力な方法であることに気がきました。

こうして私たちは、「マルシェを開催する」と決め、開催時期の「寒い季節」に着想を得た「あたたかい食べ物、あたたかい人やまち」をコンセプトに、企画書作成や地元の協力者探しを始めました。な



あたたか毛糸 ワークショップの様子

んとかマルシェの大枠が定まったものの、プレゼンを通して先方の許可が下りたのは、開催3カ月前でした。それでもイベント開催を実現できたのは、分担して作業を進めてくれたチームメンバーや出店者、そして先生方のおかげです。マルシェ当日、子どもから大人まで多くの方が楽しんでいるのを見て、それまでの達成感とともに「人々がモノやコトを共有できる空間」の大切さを実感しました。また「東京女子大学の学生がこんなすてきな活動をしているなんて」というお褒めの言葉をいただいたことも、うれしい出来事でした。この貴重な経験を通じて得た学びを、今後の研究活動、ひいては人生に生かしていきたいです。✿



【今号のテーマ】 東女のおすすめスポット

2026年度も新学期を迎え、キャンパスには学生たちの活気があふれています。日々の学びの合間に、ほっと一息ついたり、気分を切り替えたりできる場所は、学生生活をより充実させてくれる大切な存在です。今回は、在学生がおすすめするキャンパス内のスポットについて、学生記者がその魅力を紹介します。

私が考える東京女子大学のおすすめスポットは**チャペル**です。本学のチャペルは、東京女子大学の歴史やキリスト教精神を全身で感じることができる絶好の場所です。

私は東京女子大学の公認サークルである、東京女子大学クワイヤに所属しています。6月に開催されるコーラルコンサートでは、チャペルでオーケストラやプロのソリストと共に歌うことができます。

キリスト教精神を感じることができるチャペルでのこの体験は、東京女子大学ならではの美しさそのものだ実感しています。
(経済経営学科 2年 関口 璃乃)



東京女子大学クワイヤによるコーラルコンサートの様子

美しい色彩が印象的なチャペル

東京女子大学で私がおすすめしたい場所は**図書館**です。ガラス張りの開放的な空間に、自然光が差し込むおしゃれな雰囲気広がりが、入るだけで気分が上がります。静かな自習スペースに加え、友人と話し合いながら学べるエリアもあり、その日の目的に応じて使い分けられる点も魅力です。

特に印象的なのは、テスト期間中の利用です。夜遅くまで開館しているため、時間を気にせず集中して勉強することができます。私も試験前には友人と図書館に集まり、それぞれ課題に取り組みながら、分からない部分を教え合うことで理解を深めてきました。

このように図書館は、学習環境としての機能だけでなく、仲間と高め合える場でもあり、大学生活をより充実させてくれる大切な場所だと感じています。
(国際社会学科 経済学専攻 3年 青山 紗彩)



図書館にて。自然光が差し込む空間で、心地よく学習できるお気に入りの場所

私のおすすめスポットは、**croSS広場**です。食堂や購買センターがある11号館や図書館などに向かう際に通り道となっている場所です。春は桜が咲き乱れ、地面が桜の絨毯じゅうたんのようになって歩くだけで楽しい道になります。また、道のそばにベンチもあるのでそこのんびりご飯を食べることもできます。そして鮮やかな緑色の芝生が広がっているので、晴れた日にはそこで友達とピクニックをすることもできます。友達とそれぞれ持ち寄ってピクニックをし、すてきな思い出ができました。

秋にはVERA祭があり、croSS広場にも出店やキッチンカーが並びます。普段はのんびりできる場所が一気にお祭り仕様になり、にぎやかになるところも魅力です。室内で授業を受けている分、外に出てのんびりとご飯を食べたり、リフレッシュすることができるcroSS広場は私の大好きな場所です。

(社会コミュニケーション学科 2年 渡邊 未来)



croSS広場に咲く満開の桜



第 18 回

過去と「直に」対話する ——外国史研究のゼミから

人文学科歴史文化専攻 坂下ゼミ

歴史とは過去に起こったこと。でも起こっただけでは歴史になりきりません。誰かがその事柄について、語ったり、叙述したりして記録(史料)を残すことで、はじめて後世の人びとは過去の一部を「歴史」として認識できるようになります。

歴史学では、過去の事柄について調べて分析し、その結果を書くわけですが、これを(史料批判などの)学術的なルールに沿って客観的に行う点に特徴があります。細かく言うといろいろあるのですが、史料に基づいた過去の事実の認識が核という部分は動かないでしょう。史料が言っていないことについて、歴史学が何か言うことはめったにありません。あえて言う場合は、それが史料に基づかないことを言明します。それだけ史料を大事にするのです。

二次情報の「フィルター」を越えて

これはどの地域を研究しても同じですが、学部ゼミでの外国史研究には難しさがあります。史料へのアクセスの難しさに加え、言語の問題もあって、ゼミの場で史料研究を全面的に展開するのは容易ではありません。そのため、どうしても現代の研究書や論文を通じて、つまり当時の人々の「生の声」を直接聴くのではなく、後世の誰かの解釈、つまりフィルター越しに過去を見ることにな

りがちです。

そこで3年生対象のゼミでは、あえて史料を読む機会をつくっています。活字化された史料集が中心ですが、それでも外国語の史料を自ら読んでいくことを参加者に体験してもらっています。たとえば、産業革命前夜のイギリスを歩いたドイツ人作家の旅日記。若いフランス人貴族によるロンドン見聞録。あるいは、フランス革命に巻き込まれてしまったイギリス人一行の手紙。今年のゼミでは、ヨーロッパ大陸を旅したイギリスの女性貴族が、道中で妹に送った手紙を読んでいます。

史料と学生たち

外国史研究において日本史と同量の史料に触れることは難しいかもしれません。それでも、一次史料に直接触れて、そこから史実に迫る難しさと楽しさを体感する機会を必ず持ってもらおうようにしています。史料を読んだときの学生たちの反応は、研究書(二次文献)を読んだときのそれとは、明らかに異なっています。

このような試みの中には、フェイクニュースが話題になりがちないまを考えるためにも、なにごしかの意味を持つことがあるかもしれない。そんなことも少し念頭において、外国史の史料読解をゼミで続けている次第です。

小コラム



Caroline Fox, 1st Baroness Holland (1723-1774) by Allan Ramsay

近世イギリスの上流階級の間では、ヨーロッパ周遊が流行った。語学を学び、質の高い芸術に触れ、洗練したマナーを身に付けるための青年貴族の旅行で、グランドツアーと呼ばれた。だが、時には成年の女性も旅した。ゼミで手紙を読んでいるオランダ女男爵もそんな女性の一人。



SAKASHITA Chikashi

坂下 史

人文学科 歴史文化専攻 教授

1999年東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。愛知県立大学 外国語学部 専任講師、オックスフォード大学 客員研究員などを経て現職。

第7回 タイ・ワークキャンプ報告

2026年2月10日(火)から19日(木)まで、タイ北部チェンライ郊外にある山岳少数民族の児童養護施設「メーコックファーム」でのボランティアを通して建学の精神である「Service and Sacrifice」を学ぶ、第7回タイ・ワークキャンプが開催されました。参加学生に体験の様子を語ってもらいました。

心理・コミュニケーション学科 3年

田代 歩未 TASHIRO Ayumi

タイ・ワークキャンプでは、タイ北部のチェンライ郊外にある児童養護施設「メーコックファーム」で、10日間のボランティア活動に取り組みました。短い時間ではありましたが、メーコックでの日々は本当に充実しており、多くの学びを得ることができました。

私がこの活動に参加したいと思った理由は、「子どもが好き！タイに行ってみたい！」という単純な思いです。キャンプに行く前は、少し心細さや不安を感じていた部分もありましたが、明るく頼もしい仲間たちや、温かく迎え入れてくださったメーコックの方々と活動を共にする中で不安は晴れ、メーコックでの生活を全身で感じる事ができました。

まずボランティアワークでは、砂や石の山をバケツで一つ一つ運んでセメントを作るなど、洪水後の復興に携わりました。想像以上に体力勝負でしたが、皆で協力して行ったワークは達成感とともに楽しさも感じる事ができました。そして毎日の食事では、メーコックを運営するとともに、子どもたちのお世話をされているアマラクさんが絶品のタイ料理を提供してくださいました。帰国後もアマラクさんの味が恋しくなっているほど、タイ料理の魅力に気付くことができました。また、チェンライでの現地視察も思い出深いものでした。市街地やデパート、ナイトマーケット

ではタイならではの街の雰囲気を感じ、寺院や国境地帯などを訪れ文化や歴史を肌で感じました。そんな日々の中で最も心に残っているのは、やはり子どもたちとの関わりです。さまざまな背景を抱えてメーコックで生活している子どもたちですが、一人ひとりの個性や明るさ、体力には圧倒されることばかりでした。学校への送迎や日曜日の礼拝、レクリエーションを通して関わる中で、言葉の壁を越えたつながりを感じることができました。

私がこの活動を通じて得たことは、すてきな仲間との出会いと、人に「与える」ということの大切さです。当初は自分が支援する側だと考えていましたが、実際には子どもたちや現地の人々から多くのものを享受させてもらっていたのだと気付かされました。今回の経験を糧に、私も誰かに「与える」ことを惜みず、他者と支え合う生き方を大切にしていきたいです。



チェンライ視察・パープルテンプルでの集合写真



体力勝負のボランティアワーク



歌って踊って、日曜日の礼拝



ハラハラ風船運びでレクリエーション

高大連携協定締結

2026年3月に、白梅学園高等学校・白梅学園清修中高一貫部および江戸川女子中学校・高等学校と高大連携協定を締結しました。

この協定は、相互の交流と連携を通じて、中学生・高校生の知的好奇心を育て、学ぶことへの熱意を涵養するとともに、本学の求める学生像および教育内容への理解を深め、中学教育・高校教育・大学教育の質的連携を

通じて、新たな人物養成とそのための教育的可能性の開拓を目的とするものです。

今後は、この協定を基に、各校との教育に関わる交流・連携を強化していきます。

今回の各協定が、本学にとっては14件目、15件目の高大連携協定締結となります。

タイ・ブラパー大学 インターナショナルカレッジとの 大学間交流協定(MOU)を締結

東京女子大学はこのたび、タイのブラパー大学インターナショナルカレッジ(Burapha University International College: BUUIC)と、大学間交流協定(MOU)を締結しました。

ブラパー大学は、タイ東部チョンブリー県に位置する国立大学であり、英語による教育を通じて、観光・ホスピタリティ分野、起業・イノベーション教育、地域連携型プログラムに強みをもつ教育組織です。実践的な学びと国際性を重視する教育方針は、本学が推進するリベラルアーツ教育およびキャリア形成支援の考え方も親和性が高く、両大学の協力関係を一層深める基盤となっています。これからも両大学のより良い関係の構築に努めてまいります。



有名企業400社 実就職率ランキング 12年連続私立女子大学 トップ3入りになりました

東京女子大学は、「2025年有名企業400社実就職率ランキング」において全国私立女子大学2位を獲得しました。今回で同ランキングの12年連続私立女子大学トップ3入りとなります。学生一人ひとりのキャリア構築を重視し、時代の潮流に合わせた多様な支援を充実させてきた結果となりました。



能登町で復興の現場を学ぶ——本学学生がフィールドワークに参加

経済経営学科の学生3名が、石川県能登町で実施されたフィールドワーク型ワークショップ「Campus Everywhere フィールドワーク Vol.5」に参加しました。本活動は、2025年度後期 学生研究奨励費*の支援を受けて実施されたもので、能登半島地震後の復興過程において、地域と都市部をつなぐ「中間支援者」の役割について学ぶことを目的としています。

本フィールドワークには、本学学生のほか、他大学の学生、研究者、企業関係者、メディア関係者が参加しました。現地では、復興途上にある能登町の地域視察に加え、地域活動の担い手や行政関係者から直接話を伺う機会が設けられました。

学生たちは、被災地における復興を「支援する/される」という方向の関係として捉えるのではなく、外部者が地域とどのように関わり続けることができるのかという視点から、現場を観察しました。特に、都市部と地域をつなぐ中間支援者の存在や役割について、具体的な実践事例を通じて理解を深めました。



*学生が自主的に形成した研究グループの各種調査、研究活動を支援する学会の中心的な活動。教員の助言を得ながら、自ら設定したテーマに約9か月間集中して取り組み、研究成果を発表する。また、研究成果を印刷物としてまとめたグループに対する刊行補助制度があり、今までに民俗調査報告書、翻訳書等を刊行している。

2025年度ティーチングアワード学長賞の決定

2025年度より「学部教育において、教育実践に顕著な成果を上げ、本学の教育力向上と教育の活性化を目指す」ことを目的としたティーチングアワード学長賞を設立しました。2025年度は以下1名を選出し、2026年2月27日(金)に表彰式および受賞者の優れた取り組みについて全教育職員で共有することを目的とした業績報告会が開催されました。



社会コミュニケーション学科 准教授

流王 貴義氏

〈選定理由〉

流王先生は、「学生による授業評価」アンケートにおいて、国際社会基礎演習、政治社会学など複数の担当科目で学生からの高い評価を受けました。

履修学生から意見聴取を行ったところ、グループワークやディスカッションの導き方に独自の工夫があったこと、学生それぞれに対して丁寧な指導を行っており、教員との個別相談を歓迎して積極的な学びを奨励していることが認められました。

意見聴取に協力した学生たちは、この授業を通じて自分の考えを持ち発言する力が身に付いたと感じており、学長を中心とした複数の教員に対しても、のびのびと自身の考えを述べる様子が見られました。

議論のしやすいグループの作り方や、発表者への事前の指導など、他の教員も学ぶことのできる授業方法や学びへの工夫、教育に対する姿勢について総合的な観点から評価され、選定されました。

第9回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト(BPC) 報告

第9回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテストが実施され、海外を含む全国の高校生、大学生、社会人から多数の応募がありました。書類審査を経て、2025年11月1日に最終審査会がオンラインにて実施されました。事前提出されたビデオレターおよび当日のプレゼンテーション・質疑応答により審査が行われ、起業部門

からは、東女賞1件、優秀賞2件、奨励賞2件が、アイデア部門からは、東女賞1件、優秀賞1件、VERA賞1件、奨励賞3件が選出されました。また、最終審査会では、前回の東女賞を獲得したプランの報告がありました。新事業として展開しているプランもあり、本コンテストからは社会的意義のある成果も生まれつつあります。

第10回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト 募集要項

2026年度は以下の通り実施します。

1. 応募資格

高校生以上の女性で、次の①・②のどちらかに該当する方

①新たに起業をする意思のある方、もしくは今回のアイデアを実行する意思のある方

②これから新たな事業展開を予定している方、もしくはは事業を開始して間もない方、もしくはは事業に着手段階の方

2. スケジュール

●募集期間：2026年8月3日(月)～8月31日(月)

●最終審査会：2026年10月31日(土)

3. 応募部門

●起業部門：

事業企画・資金計画が具体化されたプランニング

●アイデア部門：

資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

4. 表彰

各部門により、表彰状のほか、賞金・記念品を贈呈します。

5. 応募書類送付先

東京女子大学教育研究支援課

twcu-bpc@list.twcu.ac.jp



詳細は東京女子大学公式サイトをご覧ください。

https://www.twcu.ac.jp/main/career/twcu_bpc.html

REPORT

2026年度事業計画および予算の概要

事務局長
安藤 由紀美

2026年度の事業計画および予算を本年3月の理事会で決定し、公表いたしました。詳細は、本学公式サイトをご覧ください。

【事業計画の概要】

2026年度は1学部6学科体制の2年目となります。学科間連携による分野横断型学修の促進、異なる学問領域2名の教員が担当する対話型授業「知のかけはし科目」の展開、企業と連携した実践型の授業などを通して学部教育のさらなる充実を図ってまいります。また、学生ラウンジ、デジタルラーニング教室、プロジェクト学習室などを配置した新棟の建築準備、新たな国際交流の拠点となる国際学生寮の整備を進めてまいります。



2026年度事業計画

【予算の概要】

2026年度は、健全な財務体質の実現に向け、教学改革推進への取り組みや魅力あるキャンパスの形成に向けた戦略課題に対し重点的に予算を計上しました。事業活動収支予算は、事業活動収入5,983百万円、事業活動支出6,060百万円。当年度収支差額は基本金組入前で△77百万円。4,703百万円の基本金組入後で4,780百万円の支出超過の見込みです。これに前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は△2,624百万円となります。



2026年度予算

PUBLICITY

新棟の建築・国際学生寮の整備

第3期キャンパス整備計画に基づき、次代を見据え、2つの新たな施設を誕生させます。東門近くに、主体的な学びを可能とする最先端のICT機器を有する教室、学生同士が交流しながら学べるオープンスペースなどを備えた新棟を建築します。2階には同窓会館の移転が予定されています。学生、同窓生、社会人が交流する開かれた施設となることが期待されます。(2027年12月竣工予定) また、旧北寮を全面リノベーションし、新たな国際学生寮として整備します。本学学生に加え、他大学の留学生(女性)も受け入

れ、多様な学生が共同生活を行い、日常的に英語が飛び交う生活環境を創生します。Live(居住)、Grow(成長)、Meet(交流)をコンセプトとした空間設計を行い、多角的な視点や共感性、そして国際社会で活躍できる英語力とリーダーシップを育むことができるコミュニティを形成します。新たにラウンジやキッチンなどを備えた共用棟を建設し、寮生同士の交流のほか、寮生以外にも開放して、さまざまなイベントが催される文化交流の拠点としてまいります。



新棟：学生ラウンジ(イメージ図)



国際学生寮：ライブラリースペース(イメージ図)

REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。ご芳名のWEBへの掲載お寄せさせていただきます。

NOTICE

新任教員紹介

- | | |
|--------|--------------------|
| 太田 邦史 | 学長 |
| 湯浅 成大 | 国際社会学科 特任教授 |
| 高岡 明日香 | 経済経営学科 教授 |
| 南 知恵子 | 経済経営学科 教授 |
| 白砂 堤津耶 | 経済経営学科 特任教授 |
| 菅家 沙由梨 | 社会コミュニケーション学科 特任講師 |
| 大野 聖良 | 女性学研究所 特任准教授 |
| 辻村 清行 | 客員教授 |
| 柳亭 左龍 | 客員教授 |
| 小田 有沙 | 特別客員准教授 |

※2026年4月1日付



同窓会からのお知らせ

同窓会では、同窓生や在学生、ご家族を対象にさまざまな講座やイベント、観劇会などを主催しています。一般の方に参加していただける企画もあります。私たち同窓生の活動が後輩たちの学びの一助となることを願って、収益は会員が納める会費とともに、母校への寄付や奨学金に充てられます。開催概要や申し込み方法、オリジナルグッズの購入は、下記の同窓会ホームページをご覧ください。

後期キリスト教講座 「現代に語りかける旧約聖書・エレミヤ書」
 講師：左近 豊(青山学院大学教授)
 日程：①10月2日(金)②10月23日(金) 13:30~15:00
 会場：東京女子大学同窓会館(72年館) オンライン併用
 会費：全2回2,500円、1回1,400円 学生1回500円

大学創立110周年事業・東京女子大学共催 柳亭左龍スペシャル落語講座
 講師：柳亭左龍(落語家、東京女子大学客員教授)
 日程：12月12日(土) 13:30~15:10
 会場：東京女子大学 24202教室(24号館2階) オンライン併用
 会費：3,000円 学生500円

文楽観劇会
 日程：①9月13日(日)②9月20日(日) 11:00、14:30
 大人のための文楽入門
 会場：江東区文化センター

同窓会オリジナルグッズ
 東京女子大学同窓会×FEILER オリジナルハンカチ
 縁の色：①ターコイズ ②ピンク
 販売価格：3,300円(税込)
 購入は右のQRコードから。
 品切れの際はご容赦ください。



同窓会ホームページ



Tel. 03-3395-4448
 Fax. 03-3395-0084
<https://www.twcu-alumnae.jp/>
 E-mail: office@twcu.aa.jp
 X(旧Twitter): @vera_twcu
 Instagram: @twcu.alumnae
 開館日：火~土 9時~17時 祝日休館
 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-23-11
 同窓会館(72年館)はグラウンドの向こう側に見える白い建物です。



表紙の場所

VERA広場。正門を入ると目の前に広がる芝生の広場です。本館、6号館、7号館といった、アントニン・レーモンドが設計し文化庁登録有形文化財に登録された建物群に囲まれています。中央には小さな池と日時計が設置されています。夏になると池にはスイレンの花が咲き、花卉がピンク色に染まる光景が見事です。

広報誌『VERA』定期購読のご案内

詳しくは、本学公式サイトをご覧ください。



VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」（すべて真実なこと）は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章 8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

Web アンケート



『VERA』に関するご意見、ご要望をお寄せください。QRコードよりご入力ください。



VERA

第1号／2026年度

Contents

- 02 SPECIAL FEATURE
新学長に聞く
AI時代を生き抜くリベラルアーツの力
……太田 邦史
- 05 前学長 Message
信じる……森本 あんり
森本あんり前学長へ贈る言葉
2024、2025年度の教学改革を主導され
……山本 真吾
- 06 Career
TWCU OG TALK vol.19……ハン ユジン さん
2025年度 就職決定状況／
コロナ禍以降で初となる大規模な対面行事として
「第2回就職ガイダンス」を実施しました！
- 08 Students
はばたけ東女生！
……鈴木 ここみ、鈴木 百々花、中島 梨緒
STUDENT PRESS Vol.12
……東女のおすすめスポット
- 10 Studies
ゼミの小窓 第18回……坂下 史
第7回 タイ・ワークキャンプ報告
- 12 TOPICS
高大連携協定締結／
タイ・ブラパー大学インターナショナルカレッジとの
大学間交流協定(MOU)を締結／
有名企業400社実就職率ランキング12年連続
私立女子大学トップ3入りになりました／
能登町で復興の現場を学ぶ
——本学学生がフィールドワークに参加／
2025年度ティーチングアワード学長賞の決定／
第9回東京女子大学ビジネス・プランニング・
コンテスト報告／
第10回東京女子大学ビジネス・プランニング・
コンテスト募集要項
- 14 NEWS
2026年度事業計画および予算の概要
……安藤 由紀美／
新棟の建築・国際学生寮の整備／
ご支援へのお礼／新任教員紹介／
同窓会からのお知らせ



2026年6月30日発行

東京女子大学

発行：東京女子大学 編集：広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL: 03-5382-6476 (広報課)

公式サイト

